

6月末の民間在庫 217 万トン 需要見通し大台割れ 692 万トン

農水省は7月27日に東京・霞が関で食糧・農業・農村政策審議会の食糧部会を開き、基本指針（米穀の需給および価格の安定に関する基本指針）の策定について生産・流通・実需などの委員から諮問通り答申を得た。消費実績に基づくトレンド（回帰式予測）から令和4/5年（4年7月～5年6月）の主食用米の需要見込量を大台割れの692万トン（前年比10万トン減）と算出。過去最低の需要量が更新された(下表参照)。

食糧部会での農水省の説明によると、令和3年/4年の需要（販売）実績は702万トンとなり、前年実績から2万トン減少。これを反映した今年6月末の民間在庫は217万トンとなり、前年同月を1万トン下回った。

4年産主食用米については、別稿の通り6月末現在の作付動向調査の結果から前年産比で4万3000ヘクタールの作付削減を見込み、生産量は3年産の平年作換算ペースの696万トンを23万トン下回る673万トンとする試算を提示。しかし、「7月段階では生産量・作付面積が確定前で、作柄で大きく変動する可能性がある」とし、需給見通しの上では昨年11月の指針通り675万トンに据え置いている。

主食用米等需給の3/4年実績と4/5年見通し（万トン）

3年6月末民間在庫量	A	218	218
3年産主食用米等生産量	B	701	701
3/4年主食用米等供給量計	C=A+B	919	907(12)
3/4年主食用米等需要量	D	702	702
4年6月末民間在庫量	E=C-D	217	208(9)
4年産主食用米等生産量	F	675	675
4/5年主食用米等供給量計	G=E+F	892	883(9)
4/5年主食用米等需要量	H	692	692
5年6月末民間在庫量	I=G-H	200	191(9)

(注)①4年産主食用米生産量は、6月末時点の作付意向調査の結果（4万3,000減）を基に試算すると、平年作の場合673万トンとなる見込み

②4/5年主食用米需要量は、新型コロナウイルス感染症の状況などによっては変動する可能性がある③右欄の記載は、コロナ影響緩和特別対策（特別枠）に取り組む2年産米を除いた場合の見通しで、カッコ書きは特別枠の取組数量④四捨五入の関係で毛糸内訳が一致しない場合がある。

しも提示。この場合の3/4年供給量を907万トン（特別枠分12万トン控除）、6月末民間在庫を208万トン（同9万トン控除）と見通している。

備蓄では、今年6月末の91万トンに買入入札の21万トンを加え、13～21万トンを非主食用に販売。来年6月末備蓄を91～99万トンと見込んでいる。

一方、1人当たり消費量推計に人口推計を乗じて算出するトレンド手法を基に、4/5年の需要量を692万トン（692.2万トン）と算出。今年6月末の民間在庫217万トンと4年産生産見込量675万トンを合計した供給量892万トンから需要見込量を差し引き来年6月末の民間在庫を200万トンと見通した。

なお、2年産米を対象とした周年事業（先送り販売）の特別枠（新型コロナ影響緩和特別対策）の保管状況を反映させた場合の主食用米等の需給見通